

巨樹・巨木シリーズ-12 福島県

細田木材工業株式会社
顧問 細田 安治

今回は福島県の巨樹・巨木をご紹介します。言うまでもないことだが福島県は13年前東日本大震災による津波及び東京電力福島第一原発事故により甚大な被害を受けた地である。筆者には想像もできない悲嘆そして痛苦があり、復興も道半ばであるという。しかしその地にも巨樹・巨木は存在する。津波に持っていかれそうになったり(泉の一葉マツ)、放射能を浴びた樹もあったであろう。何年も人が立ち入りを禁止された場所にも自然が在り、樹も在る。福島の実の復興を心より願いつつ稿を進める。

◇^{しおがい}塩貝の大カヤ

樹齢約1000年 樹高25m 樹周8.3m 福島県双葉郡檜葉町 福島県緑の文化財登録 (所有者 坂本紀恵子) (写真1)

カヤは何度もご紹介しているが、高級碁盤や細工物に使われており、国内では立木が減り貴重な存在となっている。このカヤは幹周りでは(暫定ではあるが)全国2位しかも樹齢1000年の樹歴を持つというから素晴らしい。檜葉町の案内板によれば戦後までは大きなカヤが3本並んでいたが、2本は建築資材として伐採されたという。この説明から推定するとこの辺りには昔からカヤの巨木が多かったのではないか。

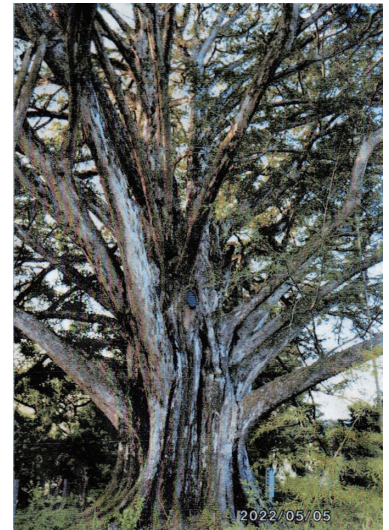


写真1 塩貝の大カヤ

◇^{だいひさん}大悲山の大スギ

樹齢伝承1000年 樹高45m 樹周7.9m 相馬市小高区泉沢字薬師寺 福島県指定天然記念物 (写真2)

石窟の門番のように聳え立つ樹齢1000年以上の2本の大スギ。県の天然記念物にも指定されている巨木で、大きくて太い枝がうねっている様は、まるで木が生きているかのようだ。正に神秘的なパワーを感じずにはいられないスポットとなっている。

大悲山のエリアは石仏も有名である。案内板によると薬師堂・観音堂・阿弥陀堂の石仏は、古くから「大悲山の石仏」として親しまれてきた国指定史跡。大分の「臼杵磨崖仏」、栃木の「大谷磨崖仏」と共に日本三大磨崖仏の一つに数えられている。平安時代前期につくられたとみられ、東北地方で最大・最古の石仏群だが、歴史的なことなど未だ謎に包まれている。「大悲山大蛇物語公園」前には、保存状態が最も良い薬師堂の石仏があり、ガラス越しとはいえ想像を超える規模に圧倒される。

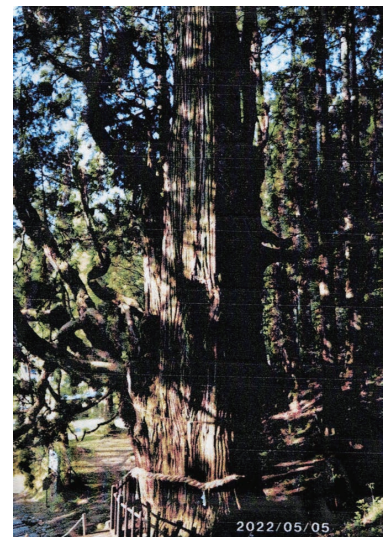


写真2 大悲山の大スギ

◇^{いずみ いちよう}泉の一葉マツ

樹齢400年 樹高8m 樹周2.5m 枝張り東西とも14m
福島県南相馬市原町区泉字町池 福島県指定天然記念物
(写真3)

「一葉マツ」は長者と弁慶の伝説があるところから別名「弁慶松」とも言われている。

有名な琵琶湖畔の唐崎の松(今は枯渇)と似た形態をしており、種類も同じクロマツで二葉の間に一葉を支えている点が共通である。1本のマツで、一葉と二葉を共に出すのはまれである。

東日本大震災の津波にも耐え、地域の人々から復興のシンボルと大切にされてきた。しかし、松くい虫により衰えが進んだため、令和1年(2019)、南相馬市に後継樹が植えられた。



写真3 泉の一葉マツ

◇^{てんし}天子のケヤキ

樹齢1000年 樹高27m 樹周15.4m 福島県那須郡猪苗代町本町 (写真4)

江戸時代前期、蒲生氏郷から蒲生忠郷の時代は、猪苗代地方の切支丹信者が人口の8割以上にもなったと伝えられている。その後、加藤嘉明・明成の弾圧で切支丹信者は一掃され、江戸時代は僅かの隠れ切支丹しかなくなってしまった。

天子のケヤキは切支丹信者の教会の跡地にある。一見、廃墟の様相を呈しているこの大木には不思議な存在感がある。左側はアザラシが大きく口を開き付近に響き渡るように咆哮しているようにも見える。今でも切支丹の教会の跡地として慕われているのであろうか。大木の根元には小さな祠と石像が奉られている。



写真4 天子のケヤキ

◇^{しゃくしが}杓子ヶ入メグスリノキ

樹齢300年 樹高20m 樹周4.1m 福島県喜多方市塩川町中屋沢字水山 (写真5)

メグスリノキはとは「目薬の木」という意味で、古くから樹皮などを煎じた液が洗眼薬として用いられたことによる。目を良く見えるようにするという意味から「千里眼の木」とも呼ばれた。樹種名もムクロジ科カエデ属メグスリノキ、落葉広葉樹である。

塩川町天然記念物教育委員会の案内板によれば、かつてこの溪畔にそって小道があり、山作業の人々が木樹を目印として往復し、また休憩地として親しまれていた場所であったと伝えられている。枝張は、

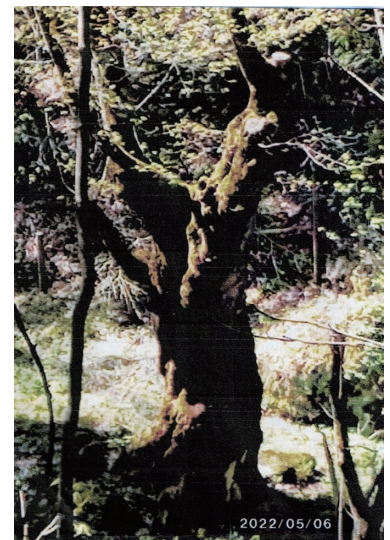


写真5 杓子ヶ入メグスリノキ

南東、北へそれぞれ9m、西へ6mほどを保っている。幹は地上3mほどで3本に分かれていて、これらの大枝はそのまま斜上し全体として開いた壺状の樹幹を形成している、とのことである。

メグスリノキとは、実に珍しい名称。筆者も初耳だった。このように、執筆活動とは毎日が勉強で自分の知識がさらに広がり一つのヒントから常に新しい発見がある。だから面白くてやめられない。

◇^{けん}剣カツラ

樹齢370年 樹高45m 樹周10m 福島県西白河郡西郷村大字真船

(写真6)

この巨大カツラの巨木は、幹に剣が深々とつきささっているように見えることからこの名があり、古くより地域の信仰の対象となっていた。カツラは古くから「勝利」、「栄光」、「高貴」等の形容につかわれてきたので、特に山仕事を生業とする人達が、林産物の伐採や搬出の無事を祈念するために剣を奉納する風習があった。このカツラはそうした人たちの信仰により護られてきた。

西郷村教育委員会によると、昔この街道筋は昼なお暗く、鬼神が出没して往来の人々を苦しめたため、時の白河城主松平定信公(榮翁公)が剣をもってこの木に封じこめたとの伝承がある。今もこの目の高さほどの祠に剣東の一部を覗くことができる。樹勢は良好で、傍らに温泉地一帯の山の鎮守 剣桂神社がある。



写真6 剣カツラ

◇^{つき}月夜見桜(槻(ケヤキのこと))

樹齢600年 樹高25m 樹周9.3m 福島県白河市表郷三森字月桜 白河市指定天然記念物 (所有者三森行政区) (写真7)

この樹には、藤原鎌足公が詠んだと言われる歌がある。

「陸奥や、踏みわけみれば筒古山 月夜見桜 澄める有明」

ツキの大樹を月明かりに咲き誇る桜と見間違えた、という歌である。藤原鎌足公の御詠歌は、ツキの樹を桜に見立てて、月夜の夜桜見物、とは誠に風流の極みである。

ツキとは、本来はケヤキの古名だが、東北地方ではケヤキの別称としてケヤキをツキと称している。「木材や」の見解を言えば、用材のランクとしては、本ケヤキ(これも通称、業界用語)と区別している。昔の本格的なケヤキの筆筒は金具付きで何代にもわたり使われてきた頑丈な筆筒だ。このような筆筒を見ていると「チョン髻姿」のお侍さんが出てくる時代劇、江戸時代に戻ったような気持ちになる。この筆筒に使われているのが本ケヤキであり、それ以外はツキと称していた。様々なことを思い出させてくれるツキの木である。

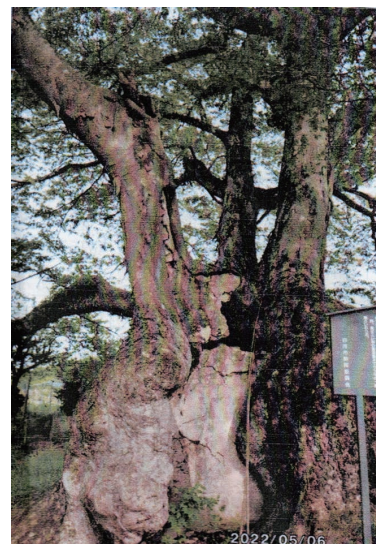


写真7 月夜見桜(槻)

◇諏訪神社の 爺スギ、媼スギ

樹齢約1200年、樹高約48m 樹周約9m 福島県田村郡小野町 国天然記念物 (写真8)

諏訪神社の本殿前にまったく同じ大きさの2本のスギが並んで立つ。藤原継縄公^{つくだ}が1200年前に、戦勝を祈願して手植したと伝わる。2株とも完璧な直幹で見事な夫婦杉といえるだろう。かつては木の根元の2本のスギの間を通り抜けて参拝できていたのだが、スギが成長するごとに、間隔が狭まってしまったのと、スギへの保護から木道が設けられ、その上を渡りつつ諏訪神社本殿まで行けるように変更された。現在の両樹の間は1.37mである。昭和の半ばの資料によると、もうすでに全国に知られた存在であったらしく、幹周は共に12m 樹高は60mとある。全国でも最大クラスであろうことには間違いなく、無二の存在として崇められていたのであろうか。



写真8 諏訪神社の媼スギ

直幹2本の杉が成長する姿はすがすがしく、まさにスギの名前の由来である「すぐ(直)な木」そのものである。2本の木が並び立つものでは、高知県のスギの大スギに次ぐものであろう。非常に貴重な門スギである。

福島県の巨樹として、カヤ、マツ、ケヤキ、カツラ、メグスリノキ、ツキ各1本ずつ銘樹、珍樹を中心に選んだ。そして今号の御職^{おしよく}を最後の「諏訪神社2本スギの媼スギ」とした。爺スギ、媼(婆)スギがスギの名の通り伸びる高さは48mとある。ともに寄り添い樹齢1200年に及ぶも、尚かくしゃくとして、樹勢衰えずなお盛んとある。

震災と放射能汚染にさらされても前を向いてがんばってらっしゃる福島の方々には深く敬意を表したい。そしてその地で年輪を重ねる巨樹には感動を覚えた。

ドラッカーの名言

マネジメントの三つの機能(現代の経営上巻)

- 第一の機能 事業をマネジメントすること、目標をつくりマネジメントすること。目標は明日を支配する(松坂大輔)
- 第二の機能 経営管理者をマネジメントすること、ミドルマネジャーをマネジメントすること。
- トップマネジメントの役割は実働部隊長が働きやすい環境をつくること

続く